

令和7年（2025年）1月



年 頭 所 感

東京通関業会

会 長 中 村 剛 喜

新年あけましておめでとうございます。

東京通関業会の会員の皆様には、ご家族とともに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、物流の2024年問題、緊迫している状態が続くウクライナ・中東問題、物価の高騰の影響など不透明感を強く感じた1年でした。

東京通関業会においても、元東京通関業会会長で顧問でもあられた鈴木宏様をご逝去なさいました。鈴木様は東京通関業会会長を長年務められた後、日本通関業連合会会長に就任しその後連合会の相談役に就任されましたが、その間、卓越した知識と経験で日本の通関業界をけん引されてきました。まだまだご指導を仰ぎたいところご逝去なされたことは痛恨の念に堪えませんが、故人の遺志を継ぎ、微力ながら東京通関業会の発展に尽力して参ります。

2025年を迎えるにあたり、私たち通関業者にとって重要な課題は、「変化への適応」であると考えております。アメリカの大統領が交代することにより、アメリカと中国との貿易摩擦の拡大が懸念されますが、我が国への影響も懸念されるところです。前のトランプ政権時代にはTPPを脱退しており、アメリカは保護主義的な立場を続け、中国との貿易摩擦が続き、国内産業の再構築や二国間貿易協定の強化が進むと予想されます。そのため、通関業界にも影響が予想され適切に対応していく必要があります。

また、本年3月には、IFCBA2025 京都国際会議が開催されます。IFCBA（国際通関業連合会）とは通関業会の国際的な業界団体であり、その総会・理事会が

京都で開催されます。本会議では加盟する各国の通関業会の会員、WCO（世界税関機構）等の国際機関及び各国税関当局、220名の参加が予定され、輸出入通関手続等に関する共通の課題について情報交換や意見交換を行い、セミナーが開催されます。この機会に、IFCBA2025 京都国際会議への会員皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

東京通関業会は、東京税関御当局のご理解、ご指導のもと、一般社団法人日本通関業連合会及び各地区通関業会とも緊密に連携し、通関業を取り巻く環境の変化に適切に対応しつつ、通関業務の更なる円滑な運営、斯業の進歩改善を図ってまいります。そのためには、引き続き第7次 NACCS 更改や人材育成に適切に対応していく所存です。

最後になりましたが、本年が東京通関業会会員及びご家族の皆様にとりまして幸多き年となりますよう祈念して、私の年頭の挨拶とさせていただきます。